

ほゆう

会報 9月号

 平成22年(2010)9月 通算197号
 北総歩こう会事務局・〒277-0841
 柏市あけぼの 2-9-20 B902
 TEL : FAX 04-7145-1620


行事の案内板

☆10月平日ウォーク いま見ておきたい！レトロ建築24選 13km (コースリーダー 軍地恒四郎)

日時／10月6日(水)9時00分 団体歩行 《W日本1800 無し》

参加費／会員100円・CWA200円・その他300円

集合／上野駅公園口広場(JR上野駅公園口改札徒歩1分)

解散／15時00分頃 数寄屋橋公園(JR有楽町駅へ徒歩3分)

コース／国立科学博物館～旧東京音楽大学奏楽堂～京成電鉄・博物館動物園駅跡～国際子ども図書館～黒田記念館～東京芸術大学陳列館～東京芸術大学赤レンガ1・2号館～上田邸～塚屋ビル～黒沢ビル～黒門小学校～湯島天神(WC)～湯島聖堂～聖橋～ニコライ堂～文化学院～山の上ホテル～錦華公園(WC)～和田倉噴水公園(昼食・WC)～東京銀行協会～明治生命館～三菱一号館～旧第一生命館(DNタワー21)～法曹会館～法務省旧本館(内部の見学あり)～大岡越前屋敷跡～市政会館・日比谷公会堂(WC)～泰明小学校～数寄屋橋公園(ゴール)

○みどころ／様式を備えた近代の名建築が次々と消えていく。一方で、有形文化財として再生・復元されるケースも多い。今回は、明治・大正・昭和前期に竣工した“いま見ておきたい”レトロ建築を見て歩く。さらに、法務省旧本館では建物の内部も見学する。

☆10月例会 野田の里山を歩く 15km (コースリーダー 中山 弘)

日時／10月11日(祝)9時00分 団体歩行 《W日本1800 柏市・野田市》認定

参加費／会員及びCWA無料・その他300円

集合／駅前広場(つくばエクスプレス線 柏たなか駅 徒歩0分)

解散／15:00頃 野田第六児童公園(東武野田線 愛宕駅へ徒歩5分)

コース／柏たなか駅～医王寺～水堰橋～長久寺～福田公民館(wc)～三ッ堀里山公園～野田市スポーツ公園(昼食・wc)～木幡神社～野田市中央の杜～野田市役所(wc)～野田第六児童公園

○みどころ／初秋の一日を柏市との市境を越え野田市南部の三ッ堀里山公園等の自然いっぱいの道を歩きます。

☆11月例会 三郷の水郷巡り 15km (コースリーダー 和田武年)

日時／11月14日(日)9時00分 《W日本1800 無し》

参加費／会員及びCWA無料・その他300円

集合／におどり公園(つくばエクスプレス線三郷中央駅徒歩2分)

解散／15時30分頃 同じにおどり公園(三郷中央駅へ徒歩2分)

コース／におどり公園～三郷放水路～東和東文化センター(wc)～大場川～鷹野文化センター(wc)～下第2大場川～閘門橋～いなげや・戸ヶ崎香取神社(wc・昼食)～中川～二郷半用水～第2大場川～におどり公園(解散式)

○みどころ／我々の住む千葉県東葛地区から、とても近い江戸川を挟んだ隣の町にもかかわらず、埼玉県三郷市は地図上の距離はとても近いが、江戸川が邪魔をして意識的には遠い町として余り知らない。今回は多くの川に囲まれた三郷市南部の水郷地帯を歩き、先人達が水との戦いに苦勞した跡を偲びたい。



東京都境の閘門橋

☆11月平日ウオーク 八柱から東松戸へ 12km (コースリーダー 森 禎之)
 日時/ 11月17日(水) 9時00分 団体歩行 《W日本 1800 松戸市》
 参加費/ 会員 100円・CWA200円・その他 300円
 集合/ 宮前公園 (新京成線八柱駅・JR 武蔵野線新八柱駅徒歩3分)
 解散/ 14時30分頃 東松戸中央公園 (JR 武蔵野線 東松戸駅へ徒歩7分)
 コース/ 宮前公園～21世紀の森公園(wc)～さくら通り～しょうぶ公園(wc)～日本の道百選～八柱霊園(昼食・wc)～ゆいの花公園～東松戸中央公園(一次解散)～JR 東松戸駅
 ○ みどころ/ さくら通りから21世紀公園の黄葉を楽しみながら常盤平団地の日本の道百選へ。そして都営八柱霊園や市内の篤志家から寄贈されたゆいの花公園の紅葉を楽しんで、新しく完成した芝生の東松戸中央公園まで行きます。(こようは運が良ければすばらしいと思います)

ふぁみりーウオーク

「ふぁみりーウオーク」の集合時間、9月から従来時間に戻り **9:00** です。ゴール解散は **12:00** までを目途にします。参加費：会員 100円・会員以外 200円

☆ 10月16日(土) 柏市の南部を巡る 約9km (担当：吉田公康)
 集合：東武野田線 逆井駅 (徒歩5分逆井第2公園) 解散：JR 常磐線 南柏駅

☆ 11月20日(土) 柏公園の紅葉 約8km (担当：中山祐子)
 集合：柏駅そごう噴水前 解散：柏駅西口第一公園

平成22年8月7日 月例会



『野田の七夕祭り』を担当して

最後が失敗～ご迷惑をかけました。

コースリーダー 市川 操

猛暑が続くさなか、また近くに花火大会もある中、大勢の皆さんの参加ありがとうございました。

コース作りは3月と4月に精力的にやりました。始めたときは、白梅紅梅が見ごろでした。コブシはまだ固い蕾でした。野田の七夕は、7年前に藤井さんの担当で、川間から歩いているが趣を変えられないか、秋には中山さんの担当で野田の東部地区での行事が予定されているし、「それならば」と、今回の構想を立てました。距離が短いので、効率を上げようと2度は往復で下見をしました。もちろん、まったく同じ道を通るわけではありません。歩きたくない道は、別な道はないかと修正を加えながら。5月後半に担当のKさんに歩いてもらい決定を見ました。その時点で、市役所に問い合わせても日にちが決定ではないという。例年通りならばそうなります。実行委員会をまだ開いてないからと。コースはあのメイン通りでよい、わき道もあるにはあるがとの話でした。

七夕の写真を撮っておきたいと思い、当日2時に会場に行ってみると、櫛ホールからメイン通りへの道も立派な飾り付けがあることを知りました。地図には表示できませんでしたが口頭では説明したが理解されたでしょうか。



夕陽のとんとみずき橋を行く

コースでは、櫛ホールから直ぐのところにはキノエネ醤油工場があるので、案内してやろうと考えたのが間違いでした。ホールの目の前に七夕飾りがあって、多くの目が当然のようにいってしまいました。ここできちんと決断を下し、ここから自由歩行、道に不案内、自信のない人は「私が野田市駅まで案内する」とすべきでした。とっさに好判断ができなくて大変ご迷惑をかけてしまいました。お詫びいたしますとともに、自身が情けなくなります。いつまでたっても勉強の連続です。

無事に家に帰られましたでしょうか？役員さんにも大変お世話になりました。(コース担当：神崎 武・菊池 靖)

歩く道みち



流山市在住会員 和田武年

北緯 38 度線を越えて

広島・長崎の平和祈念式典に続き、65回目の終戦の日を迎えました。戦争体験者が「その余りにむごたらしく、熾烈ゆえに子や孫に話さなかったが、余命を考え今話しておかないと伝わらないと思って話し始めました」との報道に接しました。終戦時、小学校 1 年生になったばかりの私も今年で満 72 歳です。子や孫達へゲームではない本当の戦争の体験を話して、日本が誤った方向に再び入り込まないよう私も、そして同年輩である「ほゆう」の皆さんも話し始めましょう。

(2010.08.15 記)

朝日新聞 2008(H20)年 2 月 18 日朝刊の「語りつぐ戦争」声欄に目が凍り付きました。そこには千葉県佐倉市の牧師さんの投稿で、父から聞いていた話の内容とそっくりの記事が掲載されていたからです。記事の要旨は「8 月 15 日の敗戦後に参入してきたソ連軍を見て、部隊長が日本兵 800 人を前に『お前達は全員召集兵である。家には妻も子もあろう。よって逃亡を許す。責任は自分がとる』と訓示して後に割腹自殺した」とありました。投稿者は 90 歳とありましたから、終戦時は私の父より 13 歳若い 27 歳だった訳です。終戦の昭和 20 年(1945)当時 40 歳だった父は、本来なら召集されない年齢ですが、兵隊が足りなくなって戦線に近い現地の臨時召集で駆出されて、咸興市か元山市(北朝鮮の都市名)の歩兵部隊にいたようです。母親に連れられて大きな車輪の汽車に乗って父に会いに行った事は覚えていますが、場所は記憶に無いのです。父の話ではソ連兵に捕まる直前に部隊長が「倉庫にある物を持って家族の所へ逃げろ」と解散してくれました。運悪く兵の半数は捕まって、シベリアに送られました。「塩が無かったので砂糖と米を持って、仕事で知っている山道を逃げたが、山で御飯を炊いた時におかず塩が欲しかった」そうです。父は電気の送電線の保守をやっていたので、山道は得意でよく知っていたし、朝鮮語もかなり喋れるようになっていたようです。「無事に家族と合流出来たのはこの部隊長のお陰だ」と話しておりました。この投稿記事は記憶の底に埋没していた、63 年前の悪夢のような体験を私に思い出させてくれました。

私の父は明治 38 年(1905)1 月 20 日、長男として大月市 SH 町に生まれました。本当はもっと早く生まれたようですが、昔は届出がいい加減だったのでしょう。産みの母親がすぐ離婚して私の父を置いて出て行きましたので、出生届けが遅くなったのかもしれない。やがて迎えた継母に育てられた父は、その後生まれた弟に遠慮して旅に出ました。岳南組(現:岳南建設)と言う送電線の鉄塔工事の会社で電工の仕事覚えて、16 歳から煙草を吸っていたそうです。100 尺の鉄塔の上で難なく仕事をしていた事が自慢でした。工事は継続して有る訳ではありませんから、仕事が無い時には実家に戻って農業の手伝いをしていました。父が結婚したのは長兄が昭和 7 年(1932)生まれですから、昭和 5 年頃と思います。続いて次兄が昭和 9 年に生まれております。この時代は「大学は出たけれど・・・就職先が無い」と言われる、世の中は大不況時代でした。村の尋常小学校から大学まで行く子供は 1000 人に一人という時代です。裕福な家からやっと大学に行ったほど珍しく、貴重な大学卒業生でさえ就職先が無かったのです。尋常小学校卒業で電工だった父は、二人の男の子が生まれても仕事が無くて困っていました。そんな時に当時、日本が統治していた朝鮮の電力会社に仕事を見つけて単身赴任して行きました。暫く現地の様子を見て、落ち着いてから、母と二人の子供を呼び寄せました。山梨の田舎育ちの母が乳飲み子二人を連れての大旅行に、母の長兄が付き添って行ってくれたそうです。

長津江水電と言う会社の社宅に入って、やがて私が 3 男として昭和 13 年 7 月に生まれました。「猛烈に暑い日だったよ」と母は言っていました。4 男の弟は昭和 16 年、5 男が 18 年に生まれて、山の中の社宅で平和に田舎暮らしをしていたようです。この頃の事で私が覚えているのは、日射の強い砂利道でクワガタより小さな黒い虫が、牛の糞を団子にして懸命に転がしているのを飽きずに眺めている少年の私です。その虫が「糞ころがし」といって、作った団子に自分の卵を産みつけて、その卵から孵った幼虫がその糞を食べて育つのだと知ったのは、日本に来て高学年になってからだと思います。

昭和 20 年 4 月、私は現地の日本人学校に入学しました。そして 8 月 15 日、校庭に集合して天皇陛下の玉音放送を聞きました。意味の分からない私は、皆が何故泣くのか不思議な顔で聞いていたような気がします。部隊長の機転で何とか生き延びた父と、また、13 歳で遠い町の電気講習所に寄宿して勉強していた長兄と家族がどうして合流出来たのか全く記憶に無いのですが、それから長くて厳しい逃亡の旅が始まりました。

持ち物は自分で背負えるものや身に付けるものだけです。そんな我々からソ連兵は銃を向けて腕時計や金品を奪い取りました。私は幼心に見ていたソ連兵が筒先を地面に向けて肩から提げている姿を、今でも思い描く事が出来ず。若い女性は鍋の墨を顔や体に塗りつけてなるべくみすぼらしい姿になりました。国民を守ってくれる筈の軍隊がいなくなり、日本との約束を破って参戦してきたソ連兵と、統治されていた地元の人々に追われての逃亡生活です。田んぼで落穂を拾って来てビンの中に入れて棒で突き精米して「お母さん、これで御飯を炊いて下さい」と言いました。

母は「親として子供にこのようなひどい思いをさせて情けない」と思ったそうです。「着のみ着のまま」とは母が良く使った言葉ですが、乞食になってひたすら歩く極限生活の中で、体力の無い者から倒れていきました。そのような悪条件下で私から下の3人兄弟がはしかの病気になりました。そして、まだ2歳になったばかりで体力の無い一番下の弟が、最も重かったのです。医薬品の全く無い状態で「人糞を黒焦げに焼いた炭が薬になる」との風聞を聞いて焼くその強烈な悪臭は、今も頭から離れません。この炭を藁にもすがる思いで多分、使ったのでしょうが、弟は何の手当ても出来ないまま犠牲になりました。私は小さな体を路傍で焼くのをじっと見ておりました。しかしこれは私の意識の想像で、この非常時に遺体を焼く暇がある訳がありませんから、そのまま冷たい土に埋めたのかもしれませんが。現在の北朝鮮と韓国との国境が北緯38度線ですが、私たちはそれを越えて釜山港までたどり着きました。逃避行を開始してから2ヶ月を越える旅、いや3ヶ月だったかもしれませんがぼろぼろになって釜山港にたどりつきました。釜山港で帰国船を待つ間の収容所生活中、私は煙草の吸殻拾い(モク拾いといいます)をやりました。父親の好物である煙草を吸わせてやる為です。釜山港から米軍の鉄の船に乗せられ、博多港に上陸して頭から全身に白い粉(DDT)をかけられました。全身にシラミがいたからです。

博多からは歩く事も無く列車で郷里の父親の実家にたどり着く事が出来ましたが、そこにも長くいる訳にもいかなくて次に母親の実家に居候する事になりました。ここは養蚕農家ですのお蚕を飼う為の低い2階・3階があり、何とか雨露を凌げました。そのうちに部落にある神社を使わせて頂ける事になり、お堂(おどろと言った)に移り住んでやっと家族としての生活が始まりました。電気が来ていないのでランプ生活です。水は500mも下った坂下の泉から汲んで来ました。ランプ掃除や水汲みは子供の仕事で、父は鍋釜日用雑貨品の行商をやり、母は実家で得意の絹織物を織りました。昭和21年4月になって私は山梨の小学校に再入学し、1年生になりました。ですから私は高校を卒業するまで、いや、社会人になって会社を定年退職するまで同期とは何時も1歳年上のハンデを背負って生きてきました。

やがて父は日本発送電(現:東京電力の前身)という送電線の保守の会社に仕事をえました。「給料が安いから生活をやっていけない」と渋る父を、母は「あなたは行商が不得手だから手に職の電工をやして下さい。私が闇米屋をしてでも生活を支えますから」と説得して社宅に入りました。そして、母と長兄は日下部(くさかべ・現在の山梨市)駅周辺の農家からお米を購入して、中央線の立川駅や国立駅周辺の家々に売り歩きました。当時、お米は統制品でしたから時々警察に捕まって、家に戻って来ない日もありました。幼かった下の弟は母が家を出て行く姿を見付けて、甲州街道(国道20号)を部落中に聞えるほどの大声で、泣きながら追いかけていく姿を思い出します。まだ布団が足りなくてこの弟とは、一枚の布団に前後から入って寝ておりました。神社のお堂を出て社宅に入る為に私は転校しました。小学校は卒業するまでに4つ(北朝鮮の小学校・大月市SH町・大月市HK町・甲州市YT町)の小学校を経験しました。小学校時代はいつも上級生が使った古い教科書を、母親が頼んで譲って貰って来たのを使いました。算数の計算はお店の「通帳」の白い部分を使っていたことを懐かしく思い出します。上の2人の兄は中学卒業以上の学校には行けなくて、私と弟は高校まで勉強させて貰えました。長兄はやがて家を出て横浜の鶴見造船と言う会社に工具として就職し、私が高校を卒業するまで毎月、旺文社の中学生時代・高校生時代などの雑誌を送って貰いました。

朝鮮の土にして来た一番下の弟の事はめったに口にしない母が、たまたまその話題が出ると「A雄には何もしてやれなかった」と、何時もひっそりと泣きました。末弟の髪の毛を少し日本に持ち帰って、父の実家の墓に納めました。これが「A雄も一緒に日本に帰って来られた」と言うささやかな両親の慰めのようなのです。父は昭和45年(1970)5月、65歳で亡くなりました。苦勞続きの一生でしたが、4人の男の子供に嫁を貰い、4人全員に出来た孫の顔も見ることが出来て、最後は幸せだったでしょう。長兄は生前、「もう一度、記憶に残る北朝鮮に行ってみよう」と言っていました。13歳まで住んでいたのですから、記憶に残っている良い思い出が数多くあったのでしょうか。しかし、実現する事も無く鬼籍に入りました。私の記憶にあるのは逃亡生活の悪い事ばかりで、ソ連と北朝鮮には全く行って見たいとは思いません。少年だった私の心に刻み込まれたのと同じ様に、当時の日本軍や官憲が、アジア各地で行った不法行為をじっと見ていた現地の子供達が沢山いた筈です。私が60年を越える歳月を経た今なお脳裏に深く沈んでいて、機会があれば今度のように噴出するように、他所の国の人々も皆さん同じではないでしょうか？

現在でもアフリカやアジアの各地で戦争をしております。そして犠牲になるのは民衆や子供達、弱い立場の人々です。戦乱に追われて逃げる民衆の映像は、かつて私が経験したのと同じです。でも、私には「頑張って両親の故郷へ帰ろう」と言う希望がありました。映像で見る民衆は故郷を追われて逃げて来たので、何時までに帰れるのか希望が無いのです。どんなに苦しくても希望があれば耐えられます。希望の無い苦勞や苦しみは、絶望や憎しみが生まれるでしょう。戦争に良い戦争も悪い戦争もありません。戦争は全て許し難い悪です。

2月18日(H20)の朝日新聞の声欄を読んで衝撃を受けてから、もやっとした意識が続きました。何日間か過ぎて「このことを文章にしてみたら、すっきりするのではないか」と思い、書いてみました。7歳の記憶はとても断片的で、文章として繋がりません。一応まとめてみましたが書いてみますと、「もっと両親が存命中に聞いておけば良かった」との反省しきりです。いよいよ古希を迎え私の孫達にいや、これからの日本を背負っていく多くの子供達に、戦争の悲惨な体験談を語り伝えるのが、私に残された人生の重要な役目だと思うこの頃です。(H20.2/21記・3/1・3/10追記)

ほゆうのひろがる



北総歩こう会に苦言を進呈

我孫子市在住会員 坂東太郎

極暑の最中、役員の皆様方大変後苦労様です。

私は北総歩こう会以外のウォークに参加したことが無いものですから、他の会のことは判りませんが、出発式の時、使用しておりますあのトランシーバー良く聞こえませんか。役員が一所懸命説明しているのに聞こえないものですから、あちら、こちらで私語が飛び交います。そうすると、益々聞き取れなくなります。本来、あのトランシーバーは歩行途中の役員間の連絡用に準備されたものでしょうね。

役員との連絡事項、注意事項が聞き取れないため、いろいろな事が発生します。歩行途中で物事を尋ねると、あれほど説明したのに、と言うような応答があります。時には、禅問答となることもあります。禅問答なら返答が帰ってくるからまだ良いのですが、こちらが聞いているのに、返答なしに逆に質問を浴びせるケースがあります。傲慢な応対と不快になります。しかし年会費を払っておりますので、もうしばらくは辛抱と自分に言い聞かせております。このような経験は私だけでしょか。(H.22.07.27 歩遊人受付)

我孫子市在住会員 坂東太郎 様

副会長: 広報担当 和田武年

会報「ほゆう」を一人で取材・編集・発行している私にとって行事の少ない 7・8・9 月の原稿集めが最もつらい時期です。今回、貴重な投稿を頂き早速編集致し本来なら投稿者の添削をお願いしてから印刷に入るところ、投稿者住所不詳のために失礼の段お許し下さい。さて、耳の痛い貴重なお叱りのご意見を頂き、有難う御座います。「良かった、立派だった」のお褒めの言葉よりこうした辛口のお言葉こそ大事に聞いて反省し改善し、会の維持発展の基にすべきだと強く思います。ご指摘の問題点は2箇所であると理解致しました。その1は「出発式での役員の説明等が聞き取れない」その2は「歩行途中で近くの役員に質問しても傲慢な態度である」でした。

その1:につきましては以前、携帯用の大型スピーカーを使用しておりましたが、出発式の会場で使用中にご近所から「朝早くから五月蝿い、休日くらいゆっくり寝かせてくれ」との苦情があり使用を中止しました。また、コースを作ったリーダーは歩行途中の名所旧跡の案内等も役目になっております。その場所々々でアンカーまで到着を待って説明をしたのでは大変なロスタイムが出来ますので、約300m以上になる列の所々に役員がいて無線機でその周辺の参加者に聞いて貰うことになっております。ところが交通整理等に追われ、理想には程遠い現実ではあります。北総歩の役員は現在会長から会計監査役まで含めて23名で行事を推進しておりますが、特別行事を除く通常の行事には12~3名の役員出席でやっております。役員も人の子、常時23名の出席は無理なのは御了解ください。出発式の時点では駅から会場までの案内・受付票配布・会員受付・他協会受付・地図配布・会報配布・CWAニュース配布・その他配布これだけで9~10名が固定されます。出発式が始まりますと参加者の中に役員が散らばって無線機のボリュームを上げて皆さんに聞こえるような配置に尽きます。私も写真を撮りながら無線機を使っておりますが職務上1箇所にとどまっておれません。この時点で受付の人員を一人2役にして散らばるようにしておりますが、遅刻して来る方がおりますので閉鎖する訳にも行かないのです。役員の数不足でご指摘の問題が発生したのでしょうか、役員がもう少し機動的に動くような改善が必要であることも事実です。

その2:につきましては其の時受けた役員の人間性の問題で、役員全員ではないことを確信しております。

以上、縷々申し上げましたが頂いた提言を今後の会の運営に役立てていきたいと存じます。

さて、北総歩こう会は発足して現在18年目を走っております。その間に幾多の北総歩解散の危機を迎えました。その原因は何時も会の行事を維持するボランティアでやっている役員不足です。会を運営している役員総てが持ち出しの手弁当でやっていることは御存知のとおりです。役員も会費を納めた一会員で御座います。

坂東太郎様 貴方様のように情熱を持った方には是非、このボランティア団体で会員を引っ張って頂きたくお願い申し上げます。私も会報ほゆうを一人で背負ってきましたが、代わってくれる方が出現しなくて(会報ほゆうや総会の席上その他でお願いしている)、既に10年の歳月が過ぎようとしております。定年退職時には東芝ルポというワープロしか使えなかった私が、会報ほゆうを担当するためにパソコン教室に通い、パソコン・プリンター・スキャナ・MOセット・デジカメ・インターネット・無線機・総て自前で揃えました。パソコン・デジカメはこの10年で何台買い換えたでしょうか? マネリ化した「ほゆう」に坂東太郎様、新しい風を是非吹き込んで頂けないでしょうか? ホームページ開設についても、私共役員の中出来る者がいなくてほゆうで募ったところ、会員の中から申し出てくれる方がいて、やっと北総歩こう会にもホームページが立ち上がりました。この管理費用、回線使用料は一切この方のご奉仕で維持されております。貴方様を含めて是非、私共の会の維持発展の為に、役員候補を御推薦・御紹介下さいますようお願い申し上げます。(H.22.07.28 記)

ほゆるのひろば



歩こうオールジャパン・地球一周 4万キロ！！

— 歩楽達人の碑を見に行ってきました —

柏市在住会員 柳田秀雄

あっという間にウォーキングを始めてから6年半が過ぎました。月例会や各地の大会に参加しているうちに多くの仲間が来て色々な楽しみ方を教えて頂きました。その内の一人から、「バスでウォークに参加し、オールジャパンを追いかけていた頃を語り合しましょう」とのお誘いを受けました。北総歩会員の名前が多いオールジャパン達成者の刻印を見ようと、信濃比叡・歩楽人の碑を見に行き行って参りましたのでご報告いたします。

信濃比叡は昼神温泉郷の近くにあり、古代東山道の最大の難所といわれた神坂峠(1576m)を越えます。旅人の苦労を少しでも和らげようと伝教大師(最澄)が、美濃側に広濟院、信濃側に広拯院(こうじょういん)と布施屋(旅行者の救護・宿泊施設)を建てたといわれています。(現在の月見堂付近)天台宗の宗教施設が出来て、平成12年に信濃比叡の称号を授かりました。延暦寺で有名な比叡山峰道に有る、伝教大師像とウォーキングの碑(歩楽達人の碑)と同一のものが信濃比叡にもあります。



歩楽達人の碑と筆者

ウォーキングの碑は故人になってから刻印され、歩楽達人の碑はオールジャパン、ダイアリー地球一周・IVV40000キロ達成者が年度順に有料で刻印されます。

当歩会から市川会長、男性ではK氏,K氏,T氏、女性ではGさん,Tさん、元会員のSご夫妻の名前がオールジャパンに有りました。今になって2年半で各県大会を2日間以上、最長距離をよくも歩いたと思っています。根本中堂下に信濃比叡門前屋があり、おからを出さない門前豆腐をワサビ・塩で食べました。美味しい！また、平成19年9月2日に店の前で捕獲したという白蛇を店内で飼っています。運(金運・開運)を運んでくると有名です。

オールジャパン達成後、ウォーキングで恩返ししようと、柏の葉公園を活動場所としてクラブ活動を始めました。今年は10月24日(日)第2回柏の葉公園ウォーキング大会を開催します。28・16kmの自由歩行です。北総歩会の行事とぶつかりませんので、是非楽しんで頂きたいと思います。(H22.07.22 歩遊人受け)



おめでとう



2010年6月30日会員の認定者

20000 km 曾我武昭さん 17000 km 林 義治さん

12000 km 今井誠一さん

地球一周4万キロを目指して頑張ろう♪♪

北総歩こう会入会のご案内

楽しく歩きましょう！！ 多くの仲間がお待ちしておりますよ！！

年会費 A 会員: ¥5,000 (JWA 情報誌宅配代 ¥2,000 を含む)

B 会員: ¥3,000 (JWA 情報誌無し)

別に A.B 会員とも初回は入会金 ¥1,000 必要です

連絡先: 〒277-0841 柏市あけぼの2-9-20 B902

北総歩こう会事務局 電話&Fax 04-7145-1620

【編集後記】会員の坂東太郎氏から例会運営方法についてお小言の投稿を頂いた。心して今後の運営に生かしていきたい。第65回終戦の日を迎えた。日本が米国と戦争をしたことを知らない大学生がいる現在、「戦争を体験した我々が子や孫にそれを伝え残そう」という声が上がっている。筆者も過酷な体験をしているが、歩けの会報に相応しいか迷いつつその体験談を掲載した。如何なものだろうか？7月・8月は例年に無い猛暑が続き、行事も少ないのをこれ幸いと、歩けは控え目にしていたが9月に入って行事予定も多数復活してきた。赤とんぼを追いかけて、さあ！野へ山へ歩きに出かけよう。 — 歩遊人 —

編集担当 和田 武年 〒270-0121 流山市西初石 6-187-43 Tel・Fax 04-7154-0170